

地域内公共交通の具体的な 施策展開について

1. 新たな運行形態の 検討

■現在のコミュニティバスの課題と新たな運行形態のまとめ

	現在のコミュニティバス	課題		新たな運行形態
運行目的	・公共施設へのアクセスや公共交通空白地域の改善	・利用者ニーズや需要に合致していない	→	公共交通空白地における日常生活(買物、通院)を支える移動環境の確保
運行システム	・定時定路線	・需要がなくても運行する必要があり、需要が少ない場合は非効率	→	・デマンド型 あらかじめルートや停留所を設定し、予約があった場合に停留所間を運行
運行ルート	・公共施設を巡回する各区一律のルート	・鉄道駅にアクセスしていない ・延長が長い循環路線 ・既存路線バスとの重複が多い	→	・鉄道駅と公共交通空白地域を結ぶルート
使用車両	・小型バス、 小型マイクロバス	・定員に比べ乗車人員が少なく非効率 ・細街路まで運行していない	→	・セダン型 (乗客定員4名)
運行頻度	・週3日または平日	・路線バスと比較して運行日数が少ない(週3日)	→	・平日、4便/日程度
運賃	・100円または無料	・適正な受益者負担が必要	→	・路線バスと同等程度の額で設定

現在のコミュニティバスと運行ルート、使用車両が大きく異なるため、現在のコミュニティバス(ふれあいバス及びみはらふれあい号)を廃止して、鉄道駅と公共交通空白地域間に特化した新たな運行形態とする

■運行ルート

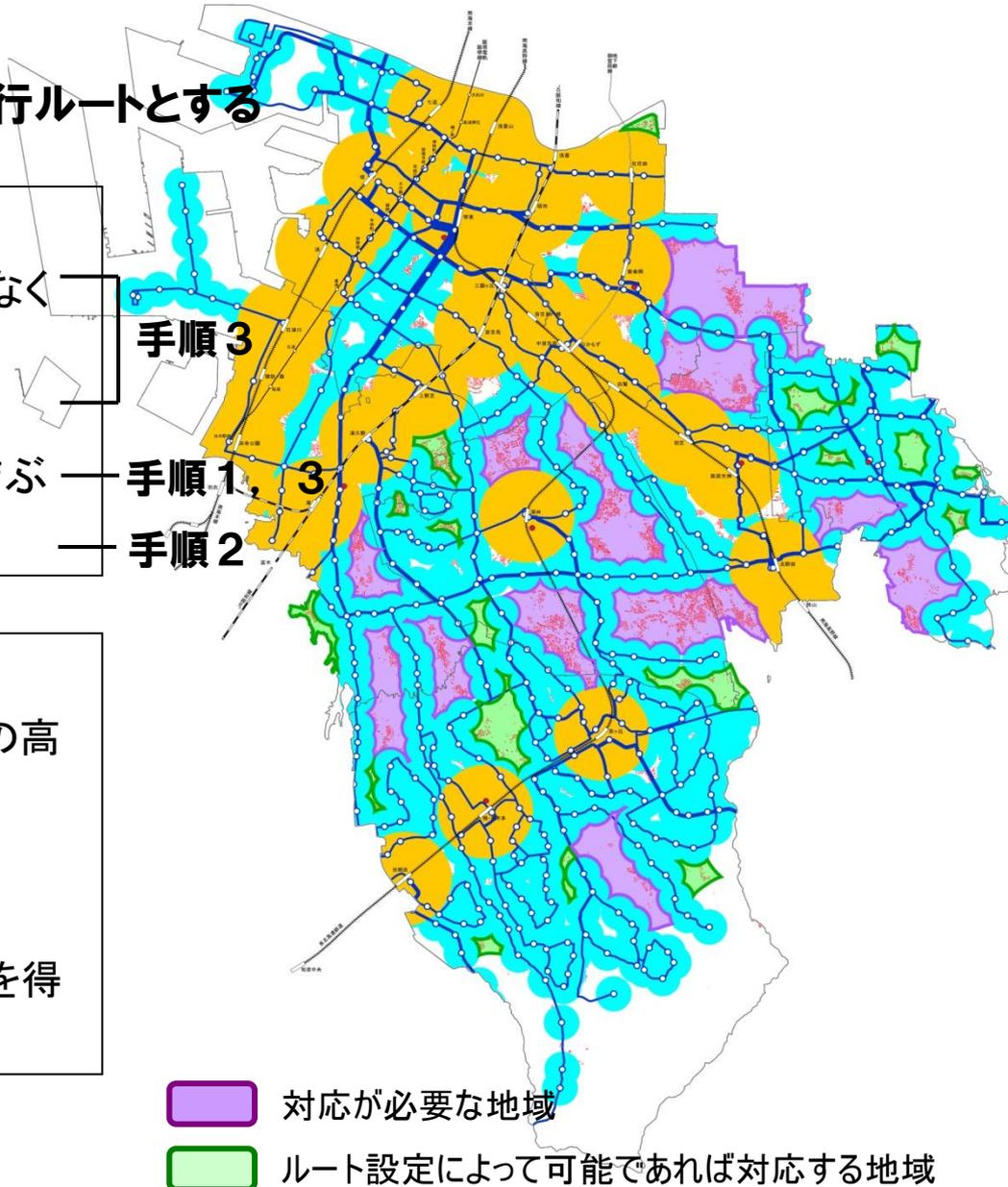
鉄道駅と公共交通空白地域間を結ぶ運行ルートとする

●ルート設定の考え方

- ・原則2つの鉄道駅を接続し、循環ではなく往復運行とする
- ・1ルートあたり概ね30分以内とする
- ・住居が集積している地域を効率的に結ぶ
- ・原則幅員4m以上の道路に設定

●停留所設定の考え方

- ・公共交通空白地域内における住居集積の高い箇所に設置
 - ・サービス圏域を考慮した効率的な配置
 - ・利用者の動線を考慮
- ⇒安全性を確認したうえで近隣住民の合意を得て設置



●ルート設定

手順1

- ・住居集積の高い箇所の抽出

